



研究校 **長野市立城東小学校**

共同研究者 **岩川直樹** (埼玉大学 教授)

テーマ

創って越える子どもと教師

## before-afterではなく now glowing を見ること

子どもたちが「やりたいことを」「やりたい方法で」「やりた  
いだけ」追究できる時間を作ってみたら面白いんじゃないか。  
という発想で始まった探究の時間。自分で考えて追究する自由  
と時間を保障することで、課題設定をする力、情報収集・分析  
の力、コミュニケーションの力等々…子どもたちが自分で身に  
着けていくと思って研究をスタートしたが、そんなに単純な話  
ではなかった。それぞれがバラバラな活動を始めたときに、子  
どもを管理しきれない不安を持つ教師、安全に活動できるルー  
ル、場所の設定、教師が知らないことを活動としている子ども  
への指導内容、課題を設定できない子どもへの支援といった、  
たくさんの課題を乗り越える形が見え始めてきたときに、共同  
研究者の岩川先生に活動を見ていただいた。活動する子どもた  
ちの姿を、隣で話しかけながら見ていた岩川先生からは「子  
どもの before-after ではなく now glowing を見ることができる  
のが教師だ」ということを教えていただいた。

探究の活動が定着してくるにつれて、新たな課題も見えき  
た。自分で自由に課題設定をするとき、今の自分にできる範囲  
の中から課題を設定して、できることだけをやっている子ども  
たちが出てきたということだった。タブレットで調べたことを  
写してまとめるだけだったり、自分の好きなようにボールを  
蹴っているだけだったりする活動だ。「自分ができることは、  
ここまでだ」と、子どもたちが自分で作ってしまっている壁を  
乗り越えたとき、成長したといえるのではないかと思った。ど  
うすれば壁を越えていくことを子どもたちが意識できるかを考  
え、悩んでいた時に、再び岩川先生に参観に来ていただいた。  
先生からは「子どもを性質と能力、スペックを上げる対象にし  
て見ている先生のスタンスを変えていくこと」「人との出会い  
によって、子どもの世界は広がっていく」ということを教えて  
いただいた。評価の対象でなく、一人の人格として見られるこ  
とから、自己の存在を感じた子どもたちが学びの主人公になっ  
ていくことを目指して、研究を進めている。



共同研究者 岩川先生から

自分がやりたいことをやれる時間と空  
間を学校につくりだす大胆な試み。

そのなかで教師が子どもの「相手にな  
る」ことの大切さが意識されてくる。  
「相手になる」ことでこそ生まれる子  
どもの活動のエネルギーがあり、「相手  
になる」なかでこそ見いだされる子  
どもの葛藤の意味がある。

「外側の制限」をなくしても残る「内  
側の枠組み」を、誰かとともに突破して  
ゆくこと。そういう「探究」の奥行きを  
ともに分かち合ってゆければと思う。

## ～日程～

- ① 開会式 13:00～13:10
- ② 研究説明 13:10～
- ③ 授業公開 14:00～15:00
- ④ 授業研究会 15:20～16:00
- ⑤ 講演会 16:00～16:40
- ⑥ 閉会式 16:40